

古民家【明治 飛騨宮川町】の魅力

1. 立地環境

- (1) JR高山本線打保駅から260メートル程(徒歩2~3分)で大変便利である。
田舎暮らしの古民家でJR本線駅にこれだけ至近距離の古民家は殆んど無い。
- (2) 路線バスも走行しており、バス停からは更に近く約180メートル(徒歩1~2分)である。JR本線及び路線バス共、公的交通機関が併走し、しかも駅・停の両方からこれだけ至近距離立地は首都圏マンションでも極めて稀であり、ましてや田舎暮らし古民家となれば皆無である。
- (3) 国道360号線に面しており、高山市街(車約30分)・富山市街(車約40分)・富山空港(車約35分)など主要部へ同幹線道で行ける。(県道・町道等の脇道を使用することなく出られる。これも珍しいことである。)
- (4) 周辺は旧知の人々の家が建ち並び、抜群の治安である。
- (5) 目前約100メートルに一級河川「清流「宮川」」(上流は高山市「宮川・朝市」)が流れ、日本でも有数の鮎釣りの拠点として名を馳せている。
- (6) 何よりも自然災害が殆ど無い恵まれた土地である。

2. 古民家の特徴

- (1) 当古民家は飛騨市では著名で、同年代に建てられたあの軽井沢「万平ホテル」(中世欧州スイス・オーストリア等の代表建築様式である白壁に独特の付け柱・付け梁工法で極太柱・同梁を配し建築の重厚美と強靱構造を兼ね備えた館)と その建築様式が似ていることから、飛騨「和風万平ホテル」と称す人もいる。

飛騨地方の古民家は白川郷の「合掌造り」に対し、高山の豪商・造り酒屋に代表される「飛騨町家造り」である。

当古民家はその両方を兼ね備えて造られているのである。

① 大屋根

- i 屋根裏には「合掌造り」と同様、燻黒超極太材で大屋根を形造り支えている。
- ii 屋根瓦は最上級品を配し、飛騨屋根職人の技が結集しこの切妻型大屋根を葺いているのである。

② 外装壁

- i 燻黒超極太梁と同極太梁の組合せによる幾何学的模様でしつらえ、その芸術的美しさと強靱さは2.(1)の通りである。

③ 内部建築・内装

- i 琥珀光超極太材柱・同材梁・同材腰板・同材階段など現在では入手困難材で造られ、飛騨町家職人が伝統の技の粋を結集し、美と強靱の兼備と調和を追求した伝来の建築技法が遺憾なく発揮されている「飛騨町家造り」なのである。
- ii 脇床の書院造りは、「天袋付き三段違い飾棚式」仕様の本格式で通常、二段違い飾棚であるが、これが「三段違い飾棚式」仕様になっている。このあたりも、町家重要部に飛騨職人の腕を競う技と粋な心意気とが表現され形造られているのである。

iii 付書院は飛騨建具職人がその繊細な建具を全て極上の手技で造り上げ、「侘び」・「寂び」・「幽玄」の緻密な心の世界へと誘うよう見事に仕上げ、現世にそれを降下しているような作品なのである。

iv 床の間は正客を迎えるに相応しく、室町東山文化(「慈照寺東求堂」)を意識して造られていると思われる。

一方、「侘び」・「寂び」・「質素」・「質実剛健」を融合した厳格な造りは、武家文化と茶の湯の文化が合体となり、それを飛騨町家職人の見事な技で表現したのである。

床柱・床框・長押・鴨居・欄間など全て最極上品材の仕様となっている。

v 大欄間の「透かし彫り」はこれこそ飛騨伝統の象徴「飛騨の匠」の技その真骨頂が開花し、流石日本一「名工の郷」の名に恥じない芸術性高き作品となっている。

vi 「飛騨町家職人」と「飛騨名工匠」が合体し建築された当古民家そのもの全てが民芸的文化財として万平ホテル同様、大きな価値財のある建築物である。(当古民家と同等設計仕様で現在建築した場合、先ず使用木材等が入手超困難である。建築職人の職人技・匠技等その技術・技量の点において比較したとき、現在は遙かに及ばない・劣る。など踏まえた上での建築費は、数億円となる見込みという。)

vii いくつか如何なる多種多様の何事でも対応可能である。

大家族の個部屋所持・家具、家財収納・多人数宿泊・催物開催・習事教室・料理教室(大調理室有)・多種多様会合など、何でも可能。

(2) 「蔵」も飛騨伝統の造りで、重厚な蔵戸に飾り職人の彫金を配した見事な造りとなっている。

二層式になっており広く、家具・道具など長大物は殆ど保管できる。

軒下に彫刻家紋を前後に嵌め込み、「城」を手本にしたと思われる造りは細部に渡り手の込んだ仕様になっていて飛騨職人の高き誇りが感じられるのである。

内部をリノベーション(改装)することで、レストラン・喫茶室・カフェ・バー・ワインバー・日本酒、焼酎専門酒場など料飲食系の私店に、あるいは、西洋画廊・日本画廊・骨董品・民芸品他、自身の蒐集品展示館など芸術系の私館等、プロの店舗にも優るとも劣らないそれぞれノスタルジー溢れる店・館に変身活用も出来る。

その他、価値ある活用方法にも十二分に対応可能な凄い「蔵」である。

3. 古民家裏土地(畑・菜園など多目的利用可能)

- (1) よくある例で、民家と距離が大変離れた場所に畑や菜園などが在るため「車を利用しないと、とても農機具や道具等運べない。しかたありません。」と嘆く田舎暮らし(首都圏からの移住者)の方たちを多数見かける。しかし、これが普通なのである。民家の地続きに畑や菜園がある都合の良い条件の物件は極小である。

当初予想していたものの、住んでみて初めて分かるのであってこれが相当の負担となつてはね返って来るのである。運搬だけの問題ではない。当然管理もしなくてはならない。こうなるとしだいに厄介になり疎かになりついには移住前夫婦であれだけ楽しみにしていた農産物収穫もいつのまにか夢となってしまうのである。

当古民家は、上記のような事には全くなならない。裏戸を開けたらそこは「おらが土地」である。蔵に農機具・道具・農作物・食料品等種類を問わず何でも保管出来、すぐに使用できる。

この様な条件の物件は極小の中の極小なのである。

穀物・果物・野菜など農作物を作るもよし、バーベキューやキャンプや野外コンサートなどなど何でも出来る何をするにしても便利この上ない。

大型太陽光パネルを敷詰め電力自給し、売電も可能である。

- (2) しかも、土地の形がほぼ超大長方形でこれまた何んでも何をするにしても大変都合良く、大変使い易く、大変便利である。
- (3) そして既に土地の後方には、「栗」・「柿」の見事な大樹が繁り毎年多量のそれぞれの実の収穫がある。

更に、蔵の後方に薬味となる「茗荷」も繁茂しており、これも多量の収穫が出来るのである。

- (4) 土地の両端側にそれぞれ延々と続く水路が設備され、自然湧き冷清水が絶えることなく心地良い、涼しい流水音を奏でながら流れているのである。で、驚愕のサプライズは、この両側水路とも所有地範囲内に在り、その範囲内分は所有権となっているのである。

四季を通じて澄んだ空気と満天の星空の下、この清流音を聴きながらの“野外での一杯”は、ストレスも吹き飛び何にも優る「長寿の秘訣」なのである。同時に、子供たちの健康にとってこれ以上のものは無いのである。

- (5) 床の間側に「池泉回流座視式庭園」が広がり、庭園内の観月池にその自然湧き冷清水を回流させて、そこに岩魚や山女を優雅に泳がせており、日本の優れた「庭園文化」をも堪能できるのである。

4. 「優れた高付加価値の宝庫」

上記の通り、立地環境・古民家・蔵・土地など、それぞれどれを取上げても独自の稀少且つ貴重な内容の「優れた高付加価値」同士が合体して融合し、当古民家を

100年以上の長きに渡り支え続けてきた。そしてこれからもこの伝統ある「飛騨古民家文化」を継承し続け、当古民家が「白川郷・合掌造り」と同様、一方の象徴的建造物になりつつあることは疑う余地が無い。

5. 改修工事等が不要

古民家はその殆どが、水回りなど改修工事が必須である。その工事費用は古民家の状態にもよるが、100万円単位での費用は「小額で済んでよかった物件」となる。

1,000万円単位で「普通」域で、要は、「改修工事費はバカにならない。」どころの問題では済まされない大変な負担となるのである。

ところが当古民家は「まず奇跡的」という言葉を冠して十二分に讃えられる、正にこの面に於いてでも「超稀少価値古民家」なのである。その答えは、「改修工事は不要である。従って、0円」こんな「スーパー古民家」は他に無い。

まだある。生活用品が殆ど揃っている。大型洗濯機・石油ストーブ・台所用品・食器(特に皿は各種多数あり)・大型食器棚・家具など e t s 何も持参しなくても即、入居・生活可能なのである。

6. 特殊設備

古民家及び蔵、両方のそれぞれ屋根に「自動融雪装置システム」が設備されている。

7. 驚きの販売価格

(1) 販売価格 : 2,000万円

(2) 土地坪当り価格 : 約4万円〔2,000万円÷約500坪=4万円/坪〕

【土地代金だけで、全て(古民家・蔵・設備品・高付加価値等がタダ同然)が買える。】

以上

現オーナーである小生の拙文(予想・観測的文言及び数値含む)である

ことを証します。